

# 22PO-am382

チーム基盤型学習 (TBL) を活用したペア学習プログラムの開発と教育実践による授業改善の試み

○飯田 耕太郎<sup>1</sup>, 武永 尚子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>名城大薬)

【目的】名城大学薬学部では 5 年次学術コース生の主体的な学習を促進し、基礎知識を補強するために実務実習に参加しない期間に補習授業を設けている。昨年度、補習授業において数名の学生がチームを組みチーム基盤型学習 (TBL) 形式の授業を行った。しかし、複数名で学習する場合、聞いているだけの学生がどのチームにも見られ学生間の双方向のディスカッションによる学び合いができていなかった。本年度、TBL 形式の授業を改善するために学生同士がペアを組み、学生間のディスカッションで学び合うペア学習プログラムを開発し、補習授業に導入実践した。本報ではペア学習プログラムの実践が 5 年次学術コース生の学習にどのような影響を及ぼしたか検証し、今後の課題について考察した。

【方法】ペア学習プログラムは、事前学習⇒個人テスト⇒ペアテスト⇒事後学習の 4 段階で構成した。事前学習は、PC や参考書等で事前に周知した学習項目を自己学習する。個人テストは PC を使って関連する国試 20 問題を個人で解答する。個人解答後、正答は公表せずペアを組み同じ 20 問をペアで解く。学生同士のディスカッションにより知識の応用を行いペアで解答を導き出す。ディスカッションは学生同士の協同性を高め事前学習と個人テストで得た知識の応用を促進する。解答後、直ちに答え合わせを行い、不正解問題については、事後学習として問題の解説をレポート用紙に記述・提出することで不足していた知識の補足を行う。

【結果・考察】ペアで解答したテストの平均点は個人テストの平均点に比べ有意に高くなった (符号検定  $p < 0.01$ )。個人で解答した場合に比べ、学生同士がペアで知識を出し合いディスカッションにより解答を導き出した場合の方が、得点が高くなり、ペア学習の効果が表われたものと示唆された。